

みなさん、こんにちは！8月に、『不登校のユニパスさん—心のかたちはそのまま—』という本が出版されました。読んでくださった方から、「とても読みやすい」「情報満載」「不登校に限らず、子育て中の方や学校の先生、学校に行っていない子どもたちにもおすすめしたい」という声をいただきました。香川県のみなさんが読んでくれたら、ハッピー子育てひろばや子育てかるたのエッセンスがあちらこちらに散りばめられていることに気づくかもしれません。出版も出産も、生みの苦しみ、育てる楽しみがあるところは同じですね。



☆読み手☆

鈴木 裕美（すずき ひろみ）
香川大学医学部 小児科専門医

10

は
ん
の
う
が
期
待
通
り
じ
ゃ
な
く
て
も
思
い
だ
そ
う
自
分
と
他
人
は
違
う
こ
と



69

じ
ぶ
ん
が
嬉
し
い
こ
と
自
分
が
嫌
な
こ
と
他
人
が
同
じ
と
は
限
ら
な
い



今月のかるた解説

親や先生が「自分が嫌なことを友達にしていけません」と子どもに注意することがあります。もちろん大切な考え方ですが、本当に「自分が嫌なこと」と「友達が嫌なこと」は同じなのでしょう。そして、誰かのために、よかれと思ってやる「自分が嬉しいこと」も「他人が嬉しいこと」に違いないという思い込みではないのでしょうか。

ほしがっていたものをサプライズでプレゼントしたら、「自分で選んだかった！」とがっかりされたり、「この間のこと、先生に相談しといたからね」と言うと、「だからお母さんには話したくなかったんだよ！」と泣かれたことがあります。

自分が嫌なことが「目立つこと」だったら、友達を学級委員に推薦するのは気が引けるかもしれません。でも、目立つことが好きな人もいます。反応が期待した通りでなくても、相手が間違っているのではなく、「喜ぶはず」「嫌がるはず」と思っていた自分の思い込みだったのかもしれません。嬉しいことも嫌なことも、人それぞれなんですよね。だから、期待した反応と違って、「そう感じる人もいるんだ」と思えたら、人間関係は少し楽になるのかもしれません。「私はこうだけど、あなたはどうか？」と聞いてみると、新しい発見があっておもしろいかもしれませんね。

